




決算説明会

2012年（平成24年）5月24日

ネツレン

高周波熱錬株式会社

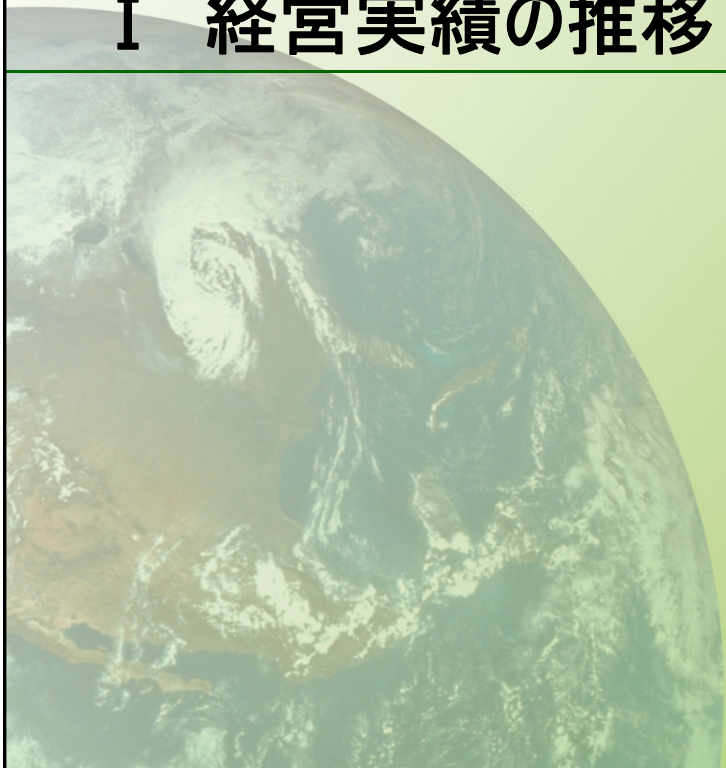


I 経営実績の推移

II 第12次中期経営計画と今後の展開

III 2012年(平成24年)3月期 連結決算の概要

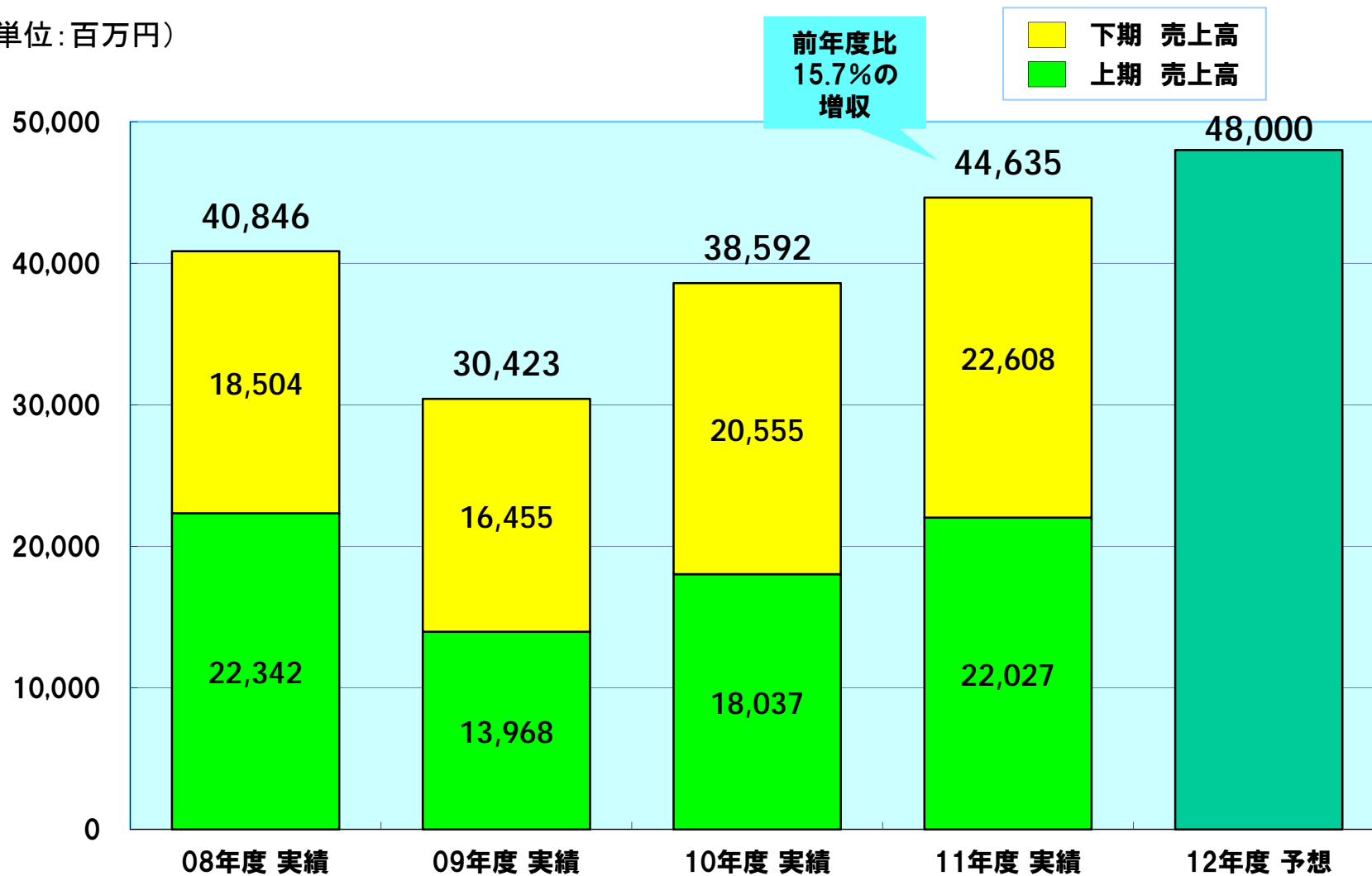
I 経営実績の推移



7

連結売上高

(単位:百万円)



前年度比
15.7%の
増収

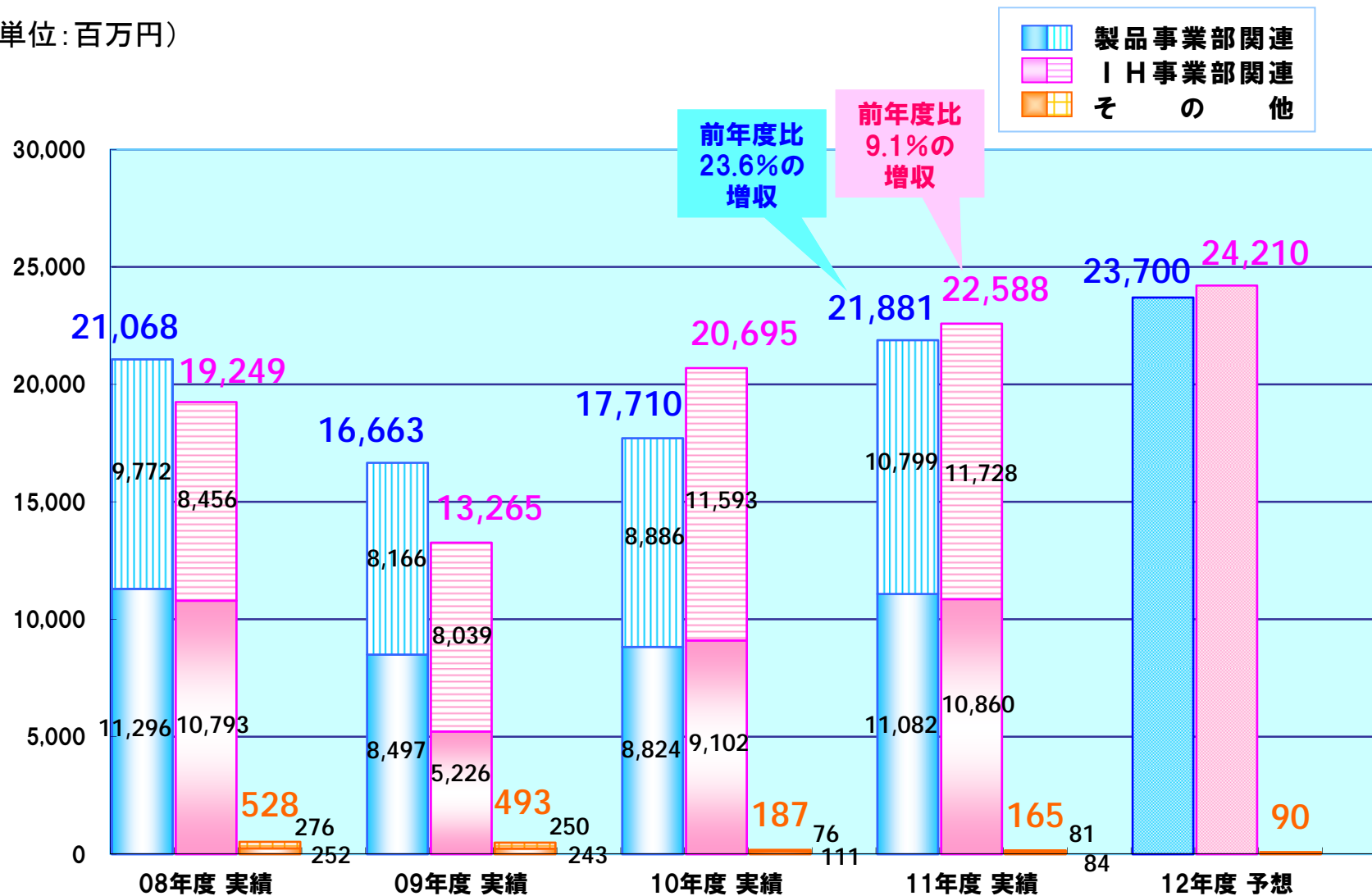
下期 売上高
上期 売上高

第11次中期経営計画

2

セグメント情報(連結売上高)

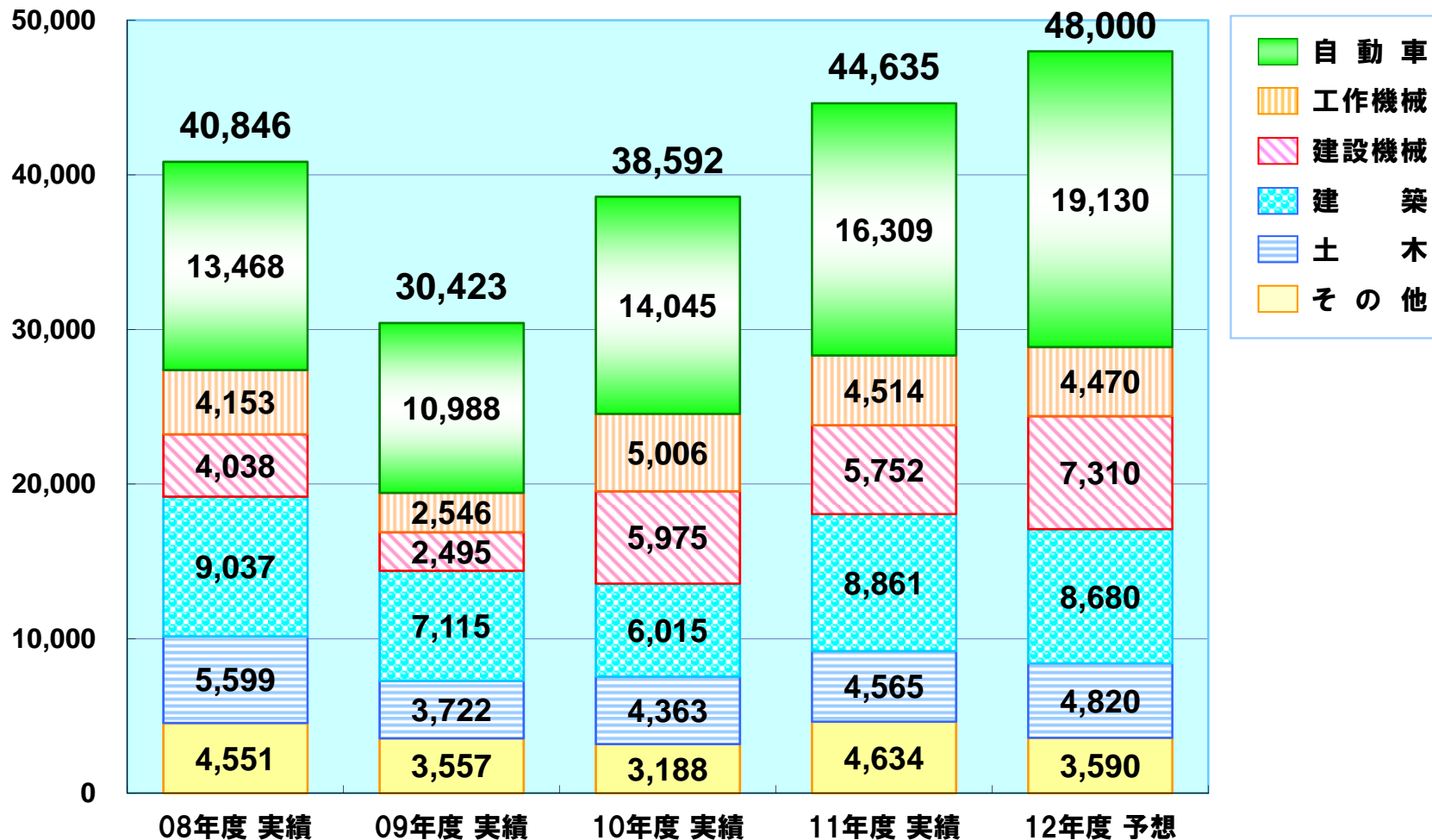
(単位:百万円)



3

業界別売上高

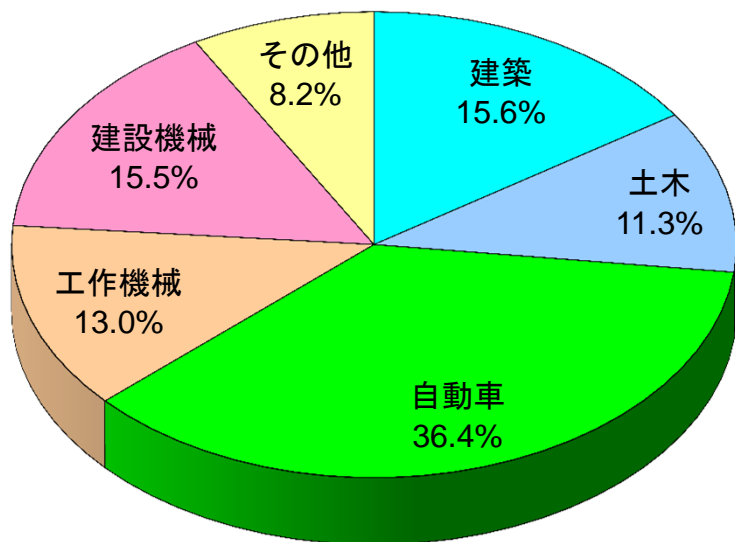
(単位:百万円)



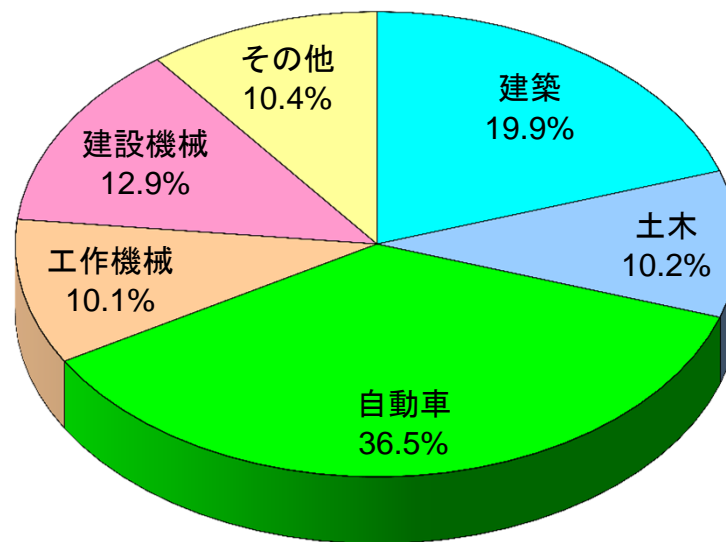
4

業界別売上高比率

2010年度実績



2011年度実績

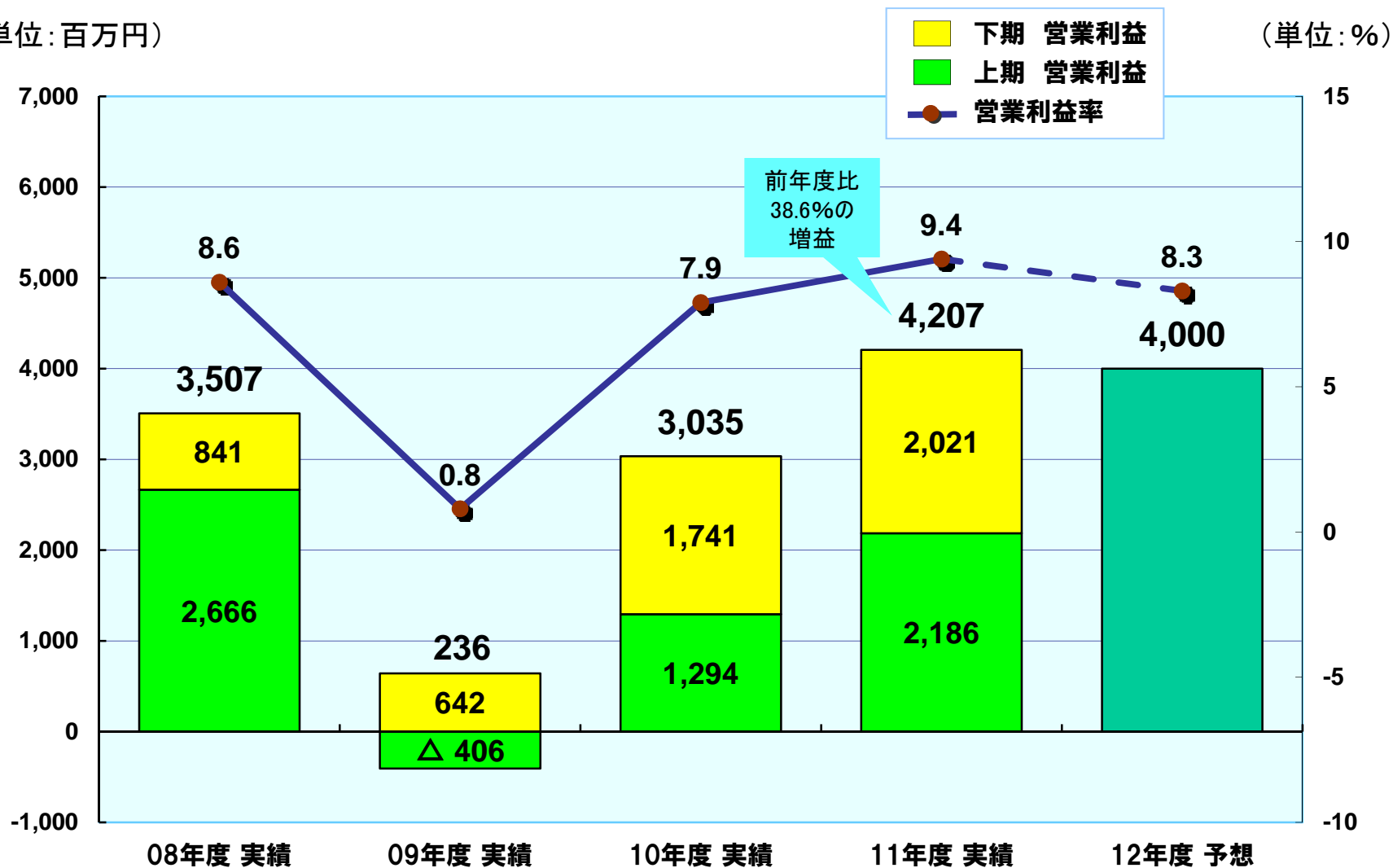


5

営業利益・営業利益率

(単位:百万円)

(単位:%)



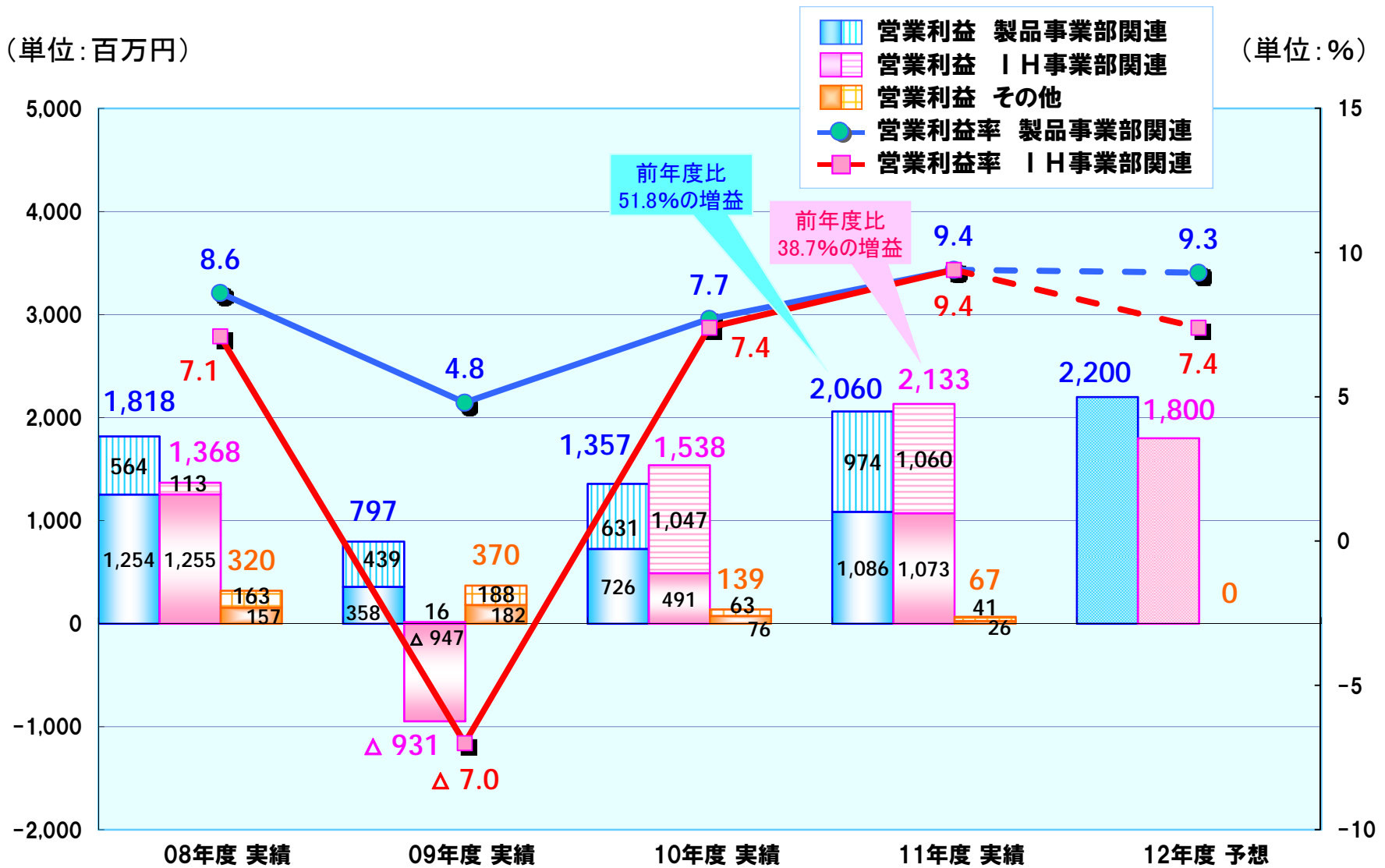
第11次中期経営計画

6

セグメント情報(営業利益・営業利益率)

(単位:百万円)

(単位:%)



※セグメント間取引消去を含む。

Ⅱ 第12次中期経営計画と今後の展開



スローガン「*Global Challenge 30*」

〔中期経営計画〕

1. 成長戦略の遂行と基盤づくり
2. グローバル事業の展開
3. 人財の確保と育成

〔主旨〕

成長戦略を遂行するため積極的に海外事業展開をし、海外売上高比率倍増（30%）に向け、果敢に挑戦する。

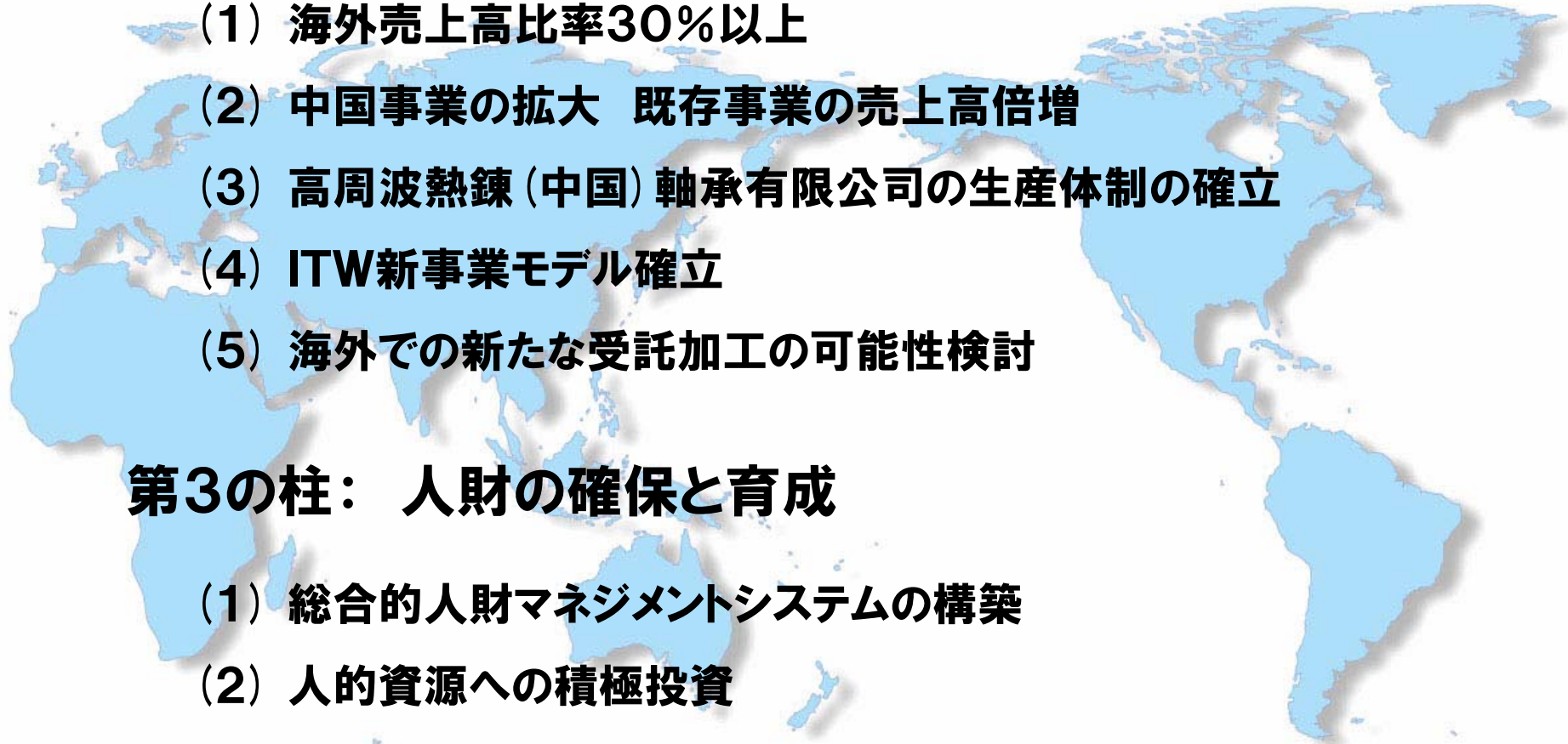
〔連結目標〕

	2012年3月期 実績	2015年3月期 目標	増減率
売上高	446億円	600億円以上	35%
うち、海外売上高比率	15%	30%以上	—
営業利益	42億円	60億以上	43%
営業利益率	9.4%	10%以上	—
ROA(総資産経常利益率)	6.8%	9%以上	—
ROE(株主資本純利益率)	5.0%	8%以上	—

第1の柱： 成長戦略の遂行と基盤づくり

- (1) 新商品・新事業の育成と実現
- (2) 既存事業の収益性改善
- (3) 関東地区受託加工の整備
- (4) 生産革新活動の推進による生産性の向上
- (5) さらなる原価低減の強化推進
- (6) 多重周波を用いた熱処理モデルの構築
- (7) 誘導加熱コイル製造技術のレベルアップ
- (8) 省エネの推進とCO₂削減

第2の柱： グローバル事業の展開

- 
- (1) 海外売上高比率30%以上
 - (2) 中国事業の拡大 既存事業の売上高倍増
 - (3) 高周波熱錬(中国) 軸承有限公司の生産体制の確立
 - (4) ITW新事業モデル確立
 - (5) 海外での新たな受託加工の可能性検討

第3の柱： 人財の確保と育成

- (1) 総合的人財マネジメントシステムの構築
- (2) 人的資源への積極投資
- (3) 次世代リーダー・グローバル人財の育成

新評価による高強度せん断補強筋1275(ウルボン)の建築分野および土木分野への拡販

●ウルボン1275新設計のメリット

対象建物

- ①最もコストメリットを発揮するのは10～20階(30m～60m)の高層RC

経済設計

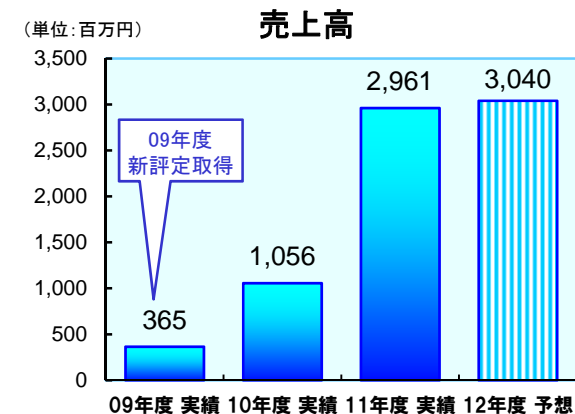
- ①建築における梁・柱の補強筋量を高強度せん断補強筋785に比べ30%以上の削減が可能
- ②土木における鉄道高架橋柱の補強量を高強度せん断補強筋785に比べ大幅に削減が可能

施工・品質アップ

- ①過密配筋の解消で鉄筋取付施工(工期)の向上とコンクリートの流動性がアップ



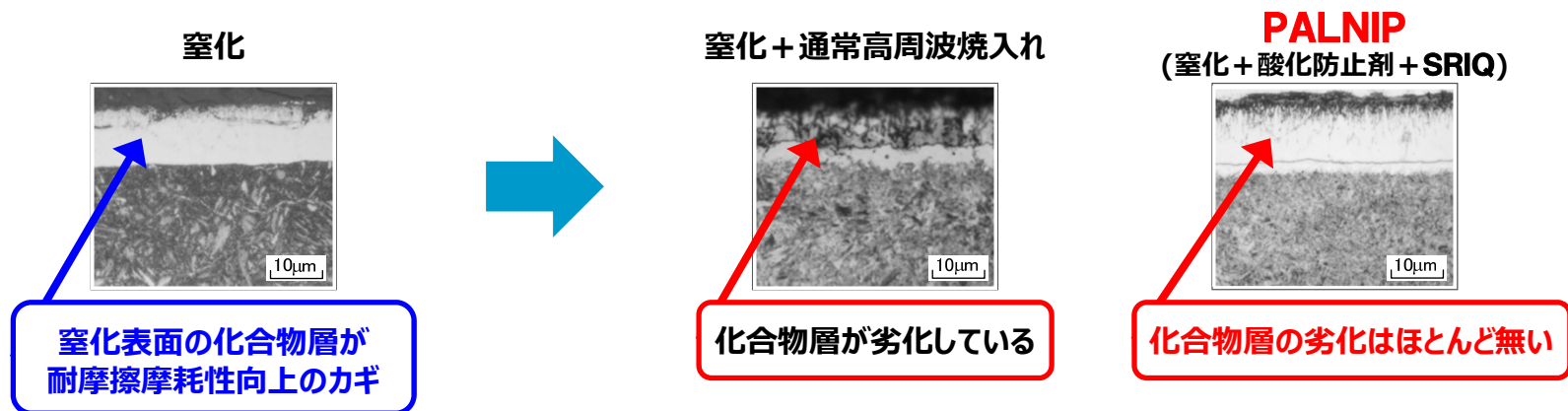
高強度せん断補強筋1275



PALNIP(窒化+SRIQによる複合熱処理)の開発

日本パーカーライジング(株)
との共同開発

1. 特長： 窒化による耐摩擦摩耗性向上とSRIQによる疲労寿命向上の両者を併せ持つ
2. 手法： 窒化時に形成された化合物層の劣化防止のために、
 - ① SRIQ前に酸化防止剤の塗布
 - ② 1.0s以下のSRIQ処理を実施



3. 期待効果： 単独の熱処理では実現できない機械的性質を付与できる
4. 生産： 尼崎工場にて、2012年1月より生産開始

PALNIP： PAL Nitride Induction Process (窒化+SRIQによる複合熱処理)
SRIQ： Super Rapid Induction Heating and Quenching (超急速短時間加熱焼入れ)

表層軟化処理による高強度・高耐久鋼材の開発

材料強度上昇 ➡ 耐遅れ破壊性低下

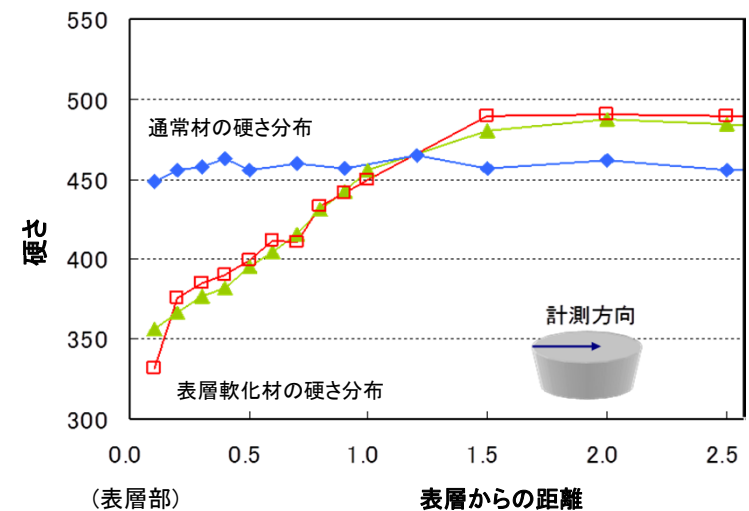
1. 手法

高周波誘導加熱の特徴である“表面加熱”を利用して、鋼材の表層を選択的に軟化し、鋼材割れの発生と進展を阻止することが可能となる

2. 期待効果

高強度でありながら、腐食環境や外力に対して破壊が生じにくい鋼材が創生できる

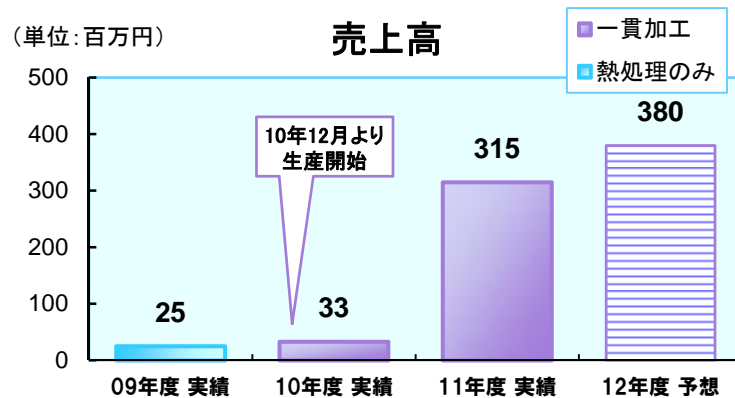
表層軟化処理鋼材の断面硬度



※高周波誘導「加熱」の特徴は、「急速短時間加熱」「表面加熱」「部分加熱」です。

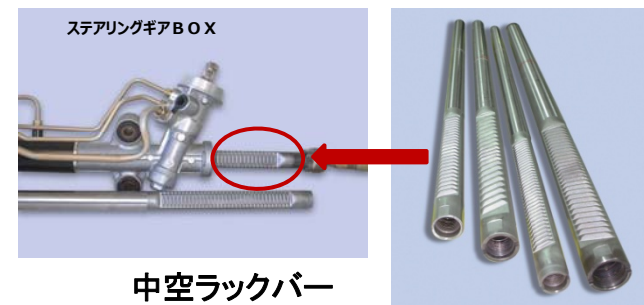
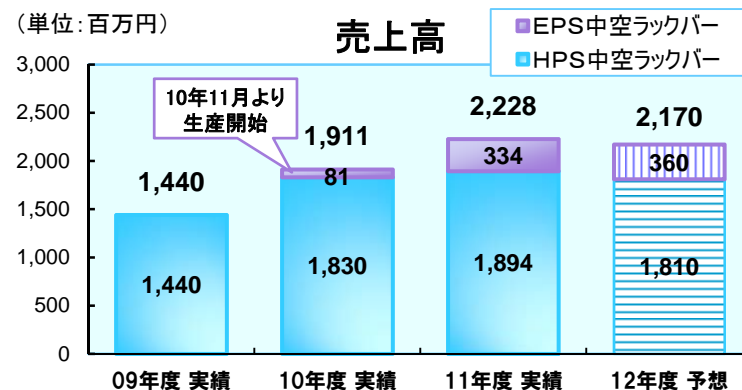
1. フロントフォークインナーチューブの加工・熱処理一貫加工の事業化の推進

“フロントフォークインナーチューブの量産体制の確立”（機械加工・熱処理・メッキの一貫加工）



2. 電動パワーステアリング用中空ラックバーの事業化

“電動パワーステアリング用中空ラックバーのグローバル販売展開”

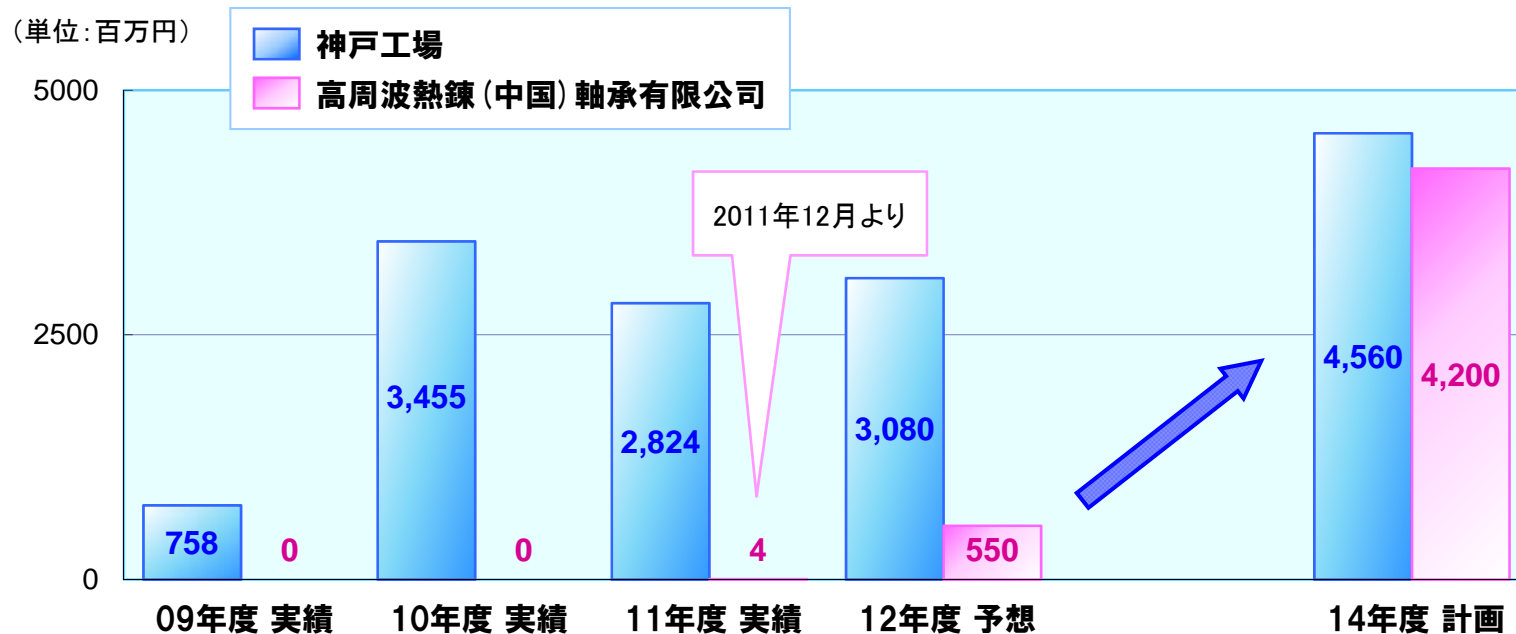


※ EPS: 電動パワーステアリング
HPS: 油圧パワーステアリング

高周波熱錬（中国）軸承 生産体制の確立

中型機種 of 早期立上げ

- ・神戸工場 … 9月に中型A機種、中型B機種立上げ予定
- ・高周波熱錬（中国）軸承 … 5月に中型A機種、7月に中型B機種立上げ予定



北関東地区での新生産拠点設置により 生産能力の向上とシェア拡大を目指す

事業基盤の強化

顧客第一の拠点づくり

- 物流コストの改善
- リードタイムの短縮
- 超大型建設機械部品の熱処理受託加工の拡大

Netzren最先端熱処理技術の導入

Netzren最先端合理化設備の導入

- ・新拠点は、
(株) Netzren・竜ヶ崎を統合
- ・寒川工場は、継続維持

2013年10月稼働
に向けプロジェクトスタート

成長市場への経営資源の積極投入！

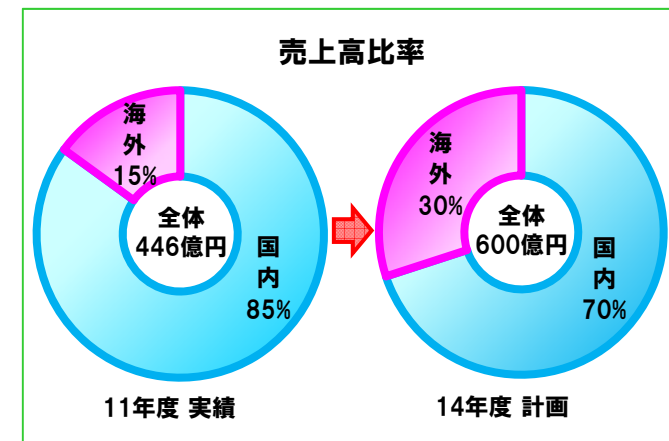
第12次中期経営計画(2015年3月期)

海外売上高比率30%以上達成

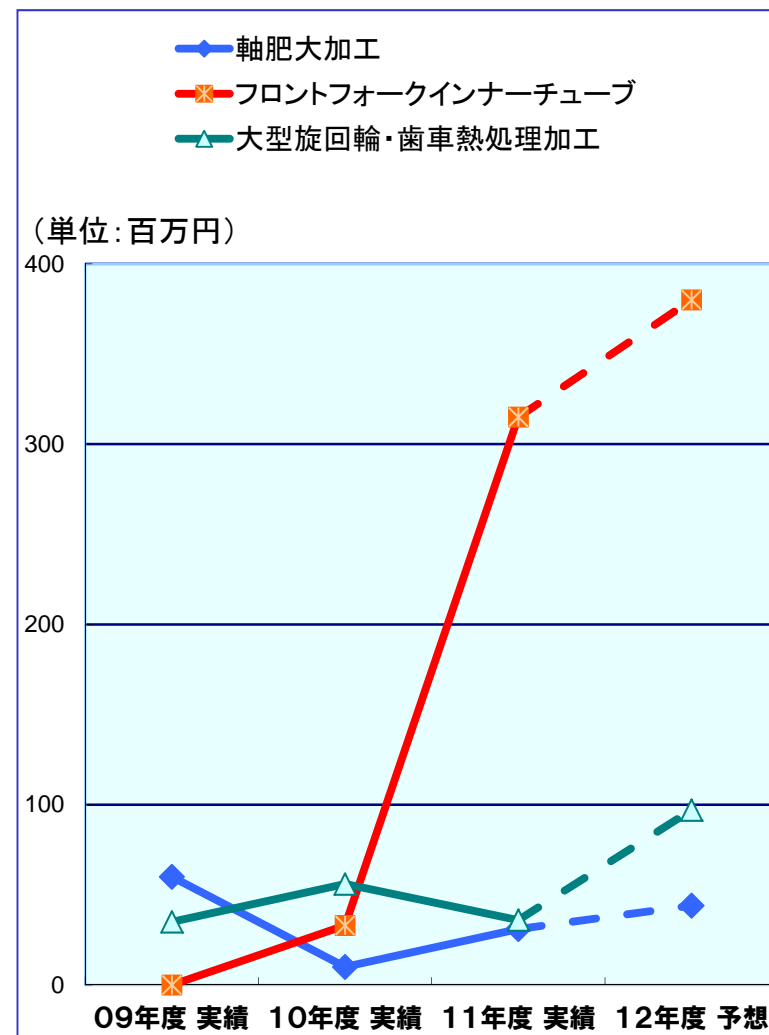
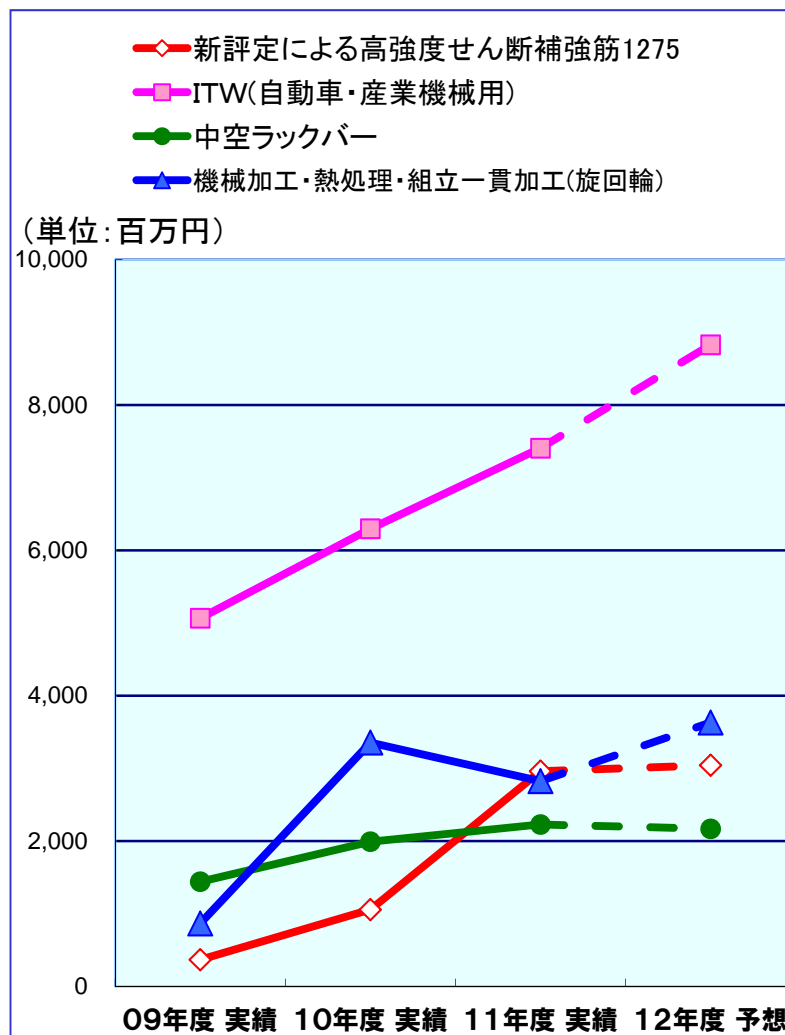


[2011～2012年度投資]

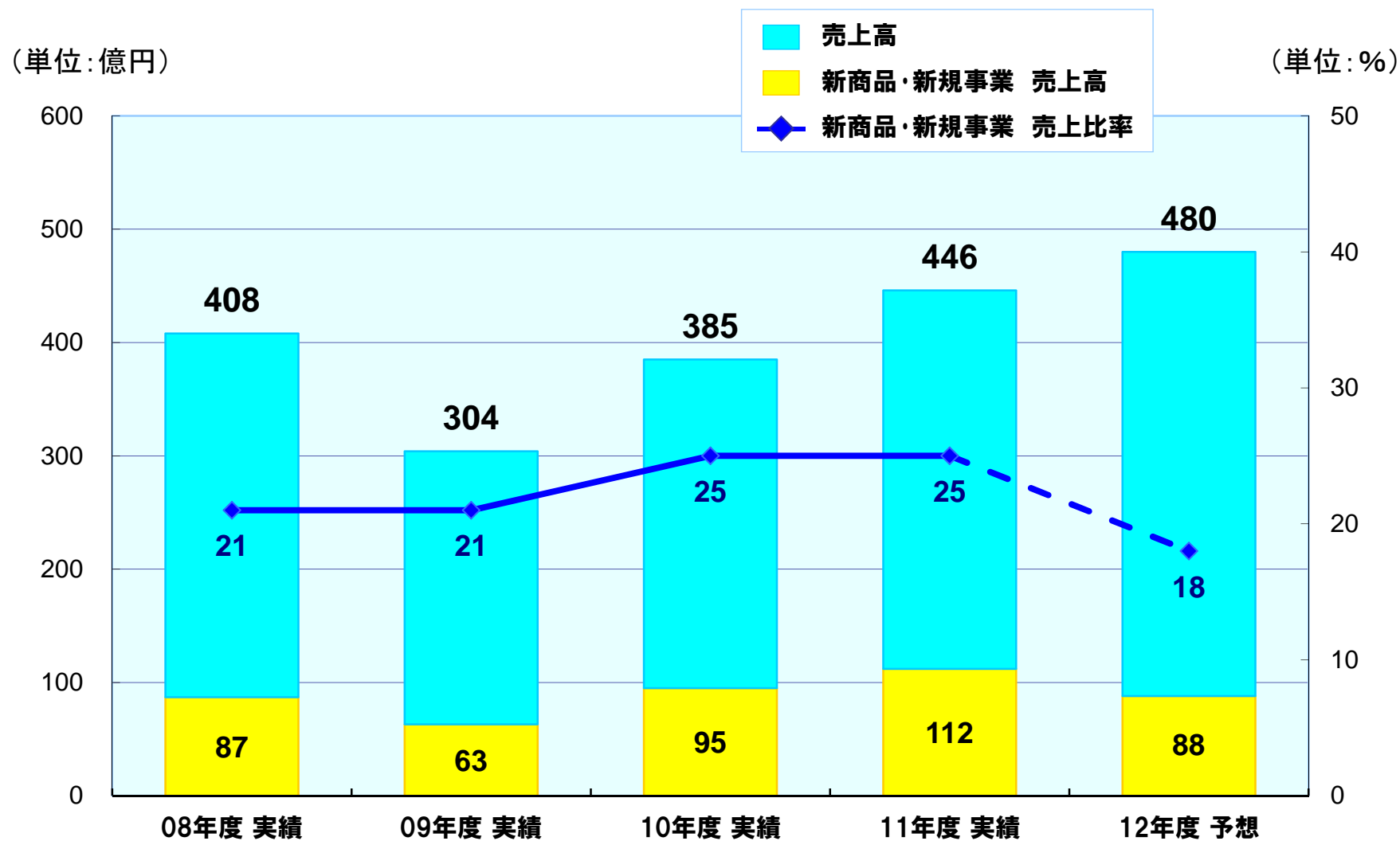
中国	高周波熱錬(中国)軸承有限公司	2011年12月稼働
	上海中煉線材有限公司	設備増強・工場増設
	塩城高周波熱錬有限公司	設備増強・工場増設
	広州豊東熱錬有限公司	設備増強
米国	Neturen America Corporation	設備増強



新商品・主要商品・新規事業売上高



新商品・新規事業売上高

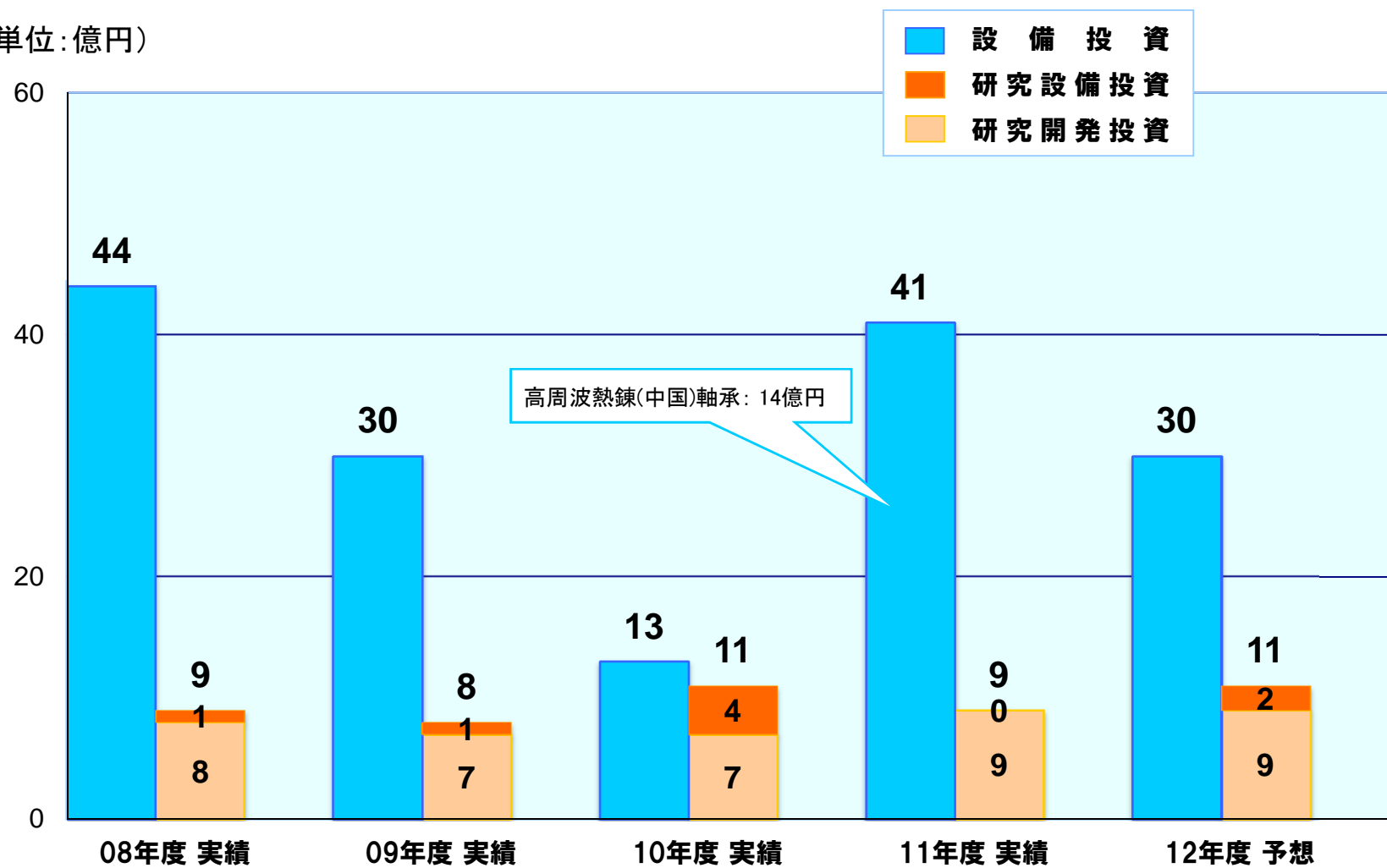


※新商品・新規事業売上高は、ネットレン新商品・新規事業売上基準による。

19

設備投資・研究開発投資

(単位:億円)



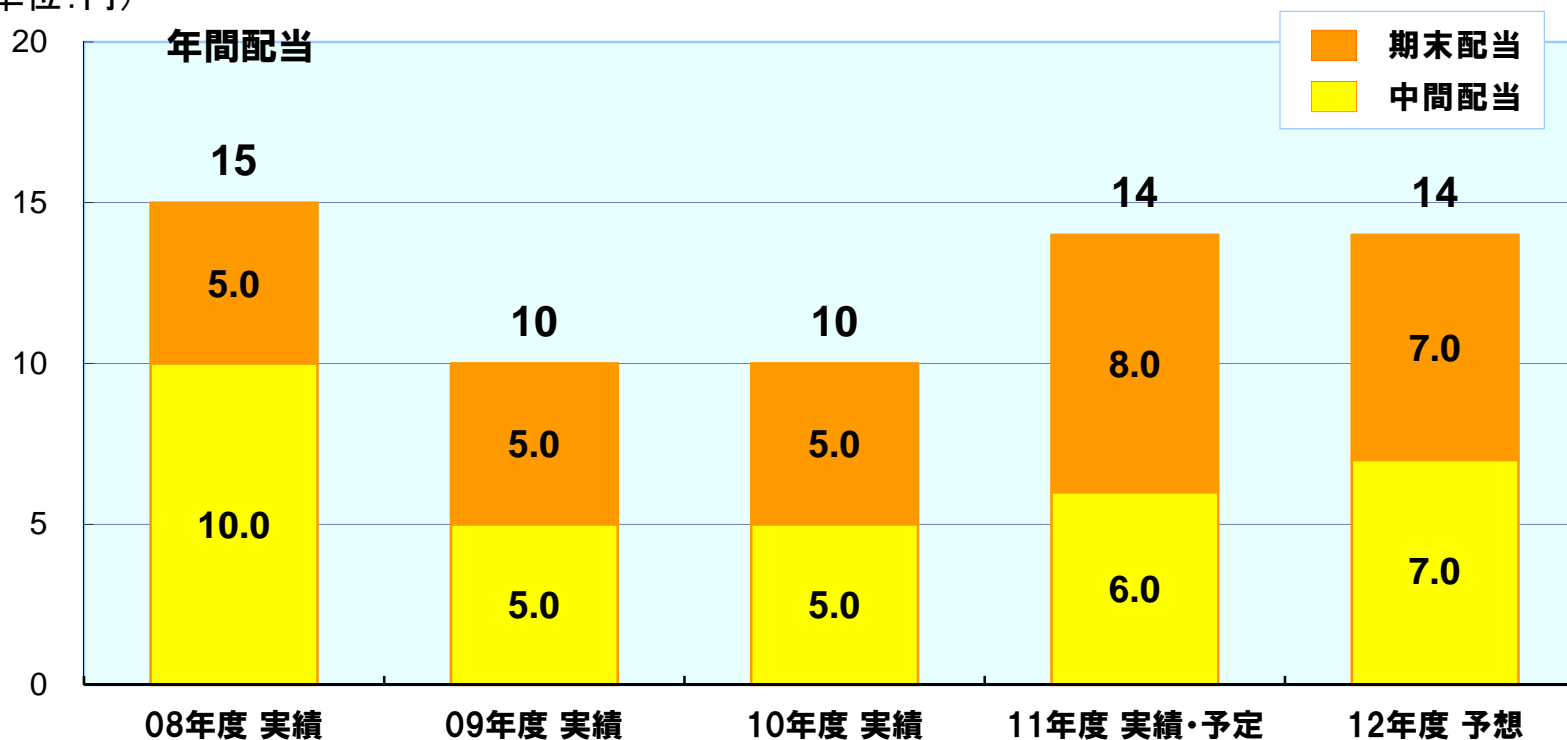
基本方針

基本的には、安定した配当を継続していくという方針に加え、業績に応じた利益配分を行うこととし、当社グループを取り巻く経営環境および財務の状況等を勘案のうえ、決定していくことを基本方針としています。

なお、原則として、「安定した配当」については、当面、年10円を下限とし、また、「業績に応じた利益配分」については、連結配当性向25%以上を目処としています。

(2011年10月13日公表)

(単位:円)



Ⅲ 2012年(平成24年)3月期 連結決算の概要



1. 2012年3月期は、東日本大震災、円高の進行、中国の景気減速等の影響があったものの、後半になって関連業界からの受注量が順調に回復いたしました。

このような経営環境のもと、個別・関係会社業績とも順調に推移し、前年同期比で増収・増益となりました。

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

高強度せん断補強筋の受注が増加し、また、自動車・二輪車用サスペンションばね等に使用される高強度ばね鋼線(ITW)の中国での販売が比較的堅調でありました。

この結果、売上高は21,881百万円(前年同期比23.6%増)、営業利益は2,060百万円(前年同期比51.8%増)となりました。

(2) IH事業部関連事業

熱処理受託加工・自動車部品関連では、東日本大震災の影響により、一時的な受注の落ち込みがありましたが、後半になって回復いたしました。

建設機械部品関連では、中国の景気減速等の影響で受注が伸び悩み、前年同期と比較し減少いたしました。

また、誘導加熱装置関連においては、企業の設備投資意欲が回復し、受注は前年同期と比較し増加いたしました。

この結果、売上高は22,588百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は2,133百万円(前年同期比38.6%増)となりました。

(3) その他

前連結会計年度において、賃貸用オフィス1フロアを売却したことなどにより、賃貸収入は減少いたしました。

この結果、売上高は165百万円(前年同期比11.4%減)、営業利益は67百万円(前年同期比51.7%減)となりました。

3. 先行き不透明感が強い中、フリーキャッシュ・フローの黒字、実質的な無借金経営、高い自己資本比率など、健全かつ強固な財務体質を維持しています。

(単位:百万円・%)

	2011年 3月期	2012年 3月期	増 減	増減率
売 上 高	38,592	44,635	6,042	15.7
営 業 利 益	3,035	4,207	1,171	38.6
経 常 利 益	3,439	4,470	1,030	30.0
当 期 純 利 益	2,201	2,363	162	7.4
R O A	5.5	6.8	1.3	-
R O E	4.7	5.0	0.3	-

(注) ROA = 経常利益 / 資産合計 (当年度末・前年度末の平均値) × 100(%)

ROE = 当期純利益 / 純資産合計(当年度末・前年度末の平均値) × 100(%)

24

セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円・%)

事業区分	主な製品	2011年 3月期	2012年 3月期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	17,710	21,881	4,171	23.6
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	20,695	22,588	1,892	9.1
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	187	165	△ 21	△ 11.4
合 計		38,592	44,635	6,042	15.7

25

セグメント情報(連結営業利益)

(単位:百万円・%)

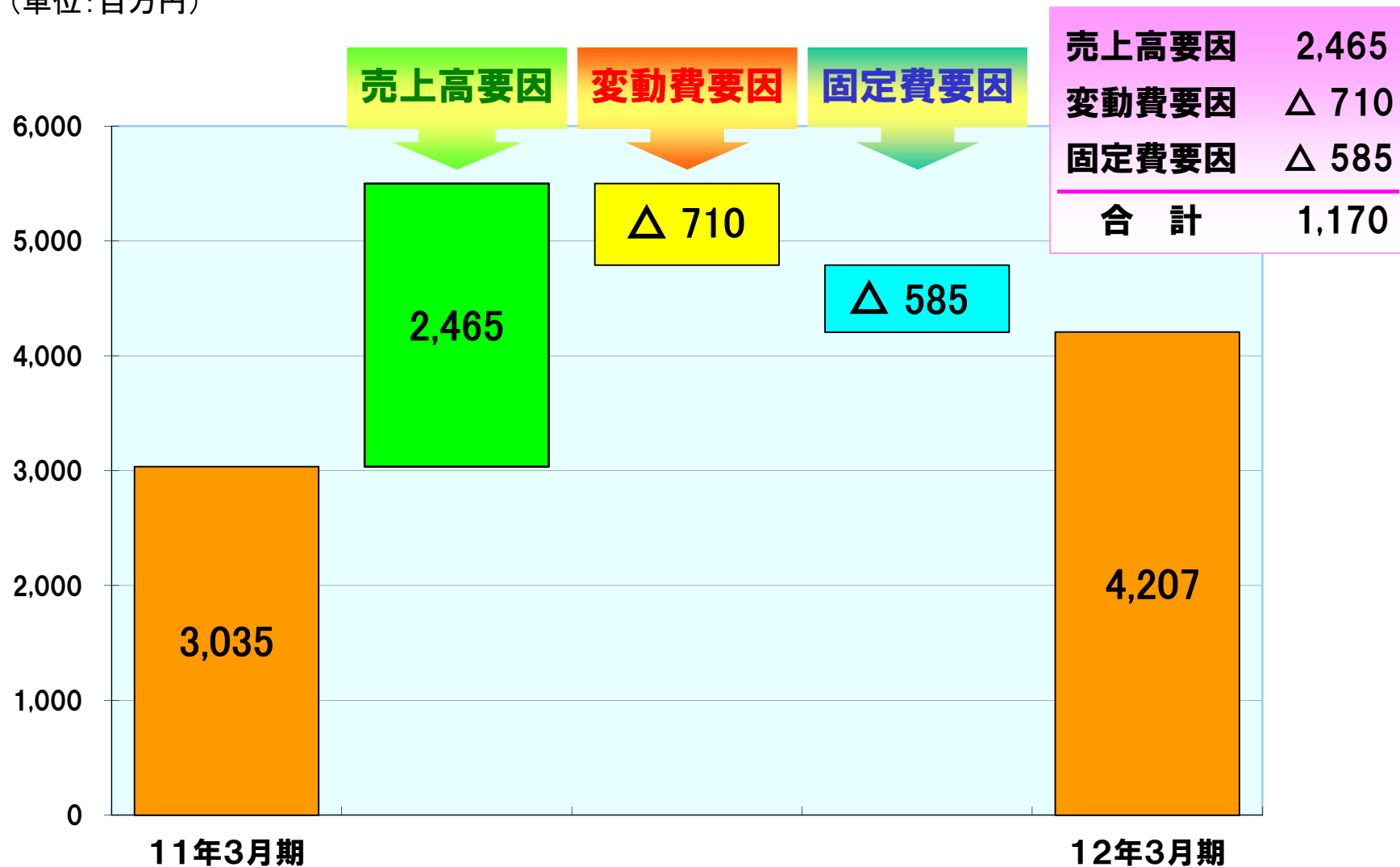
事業区分	主な製品	2011年 3月期	2012年 3月期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	1,357	2,060	703	51.8
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	1,538	2,133 (△ 53)	594	38.6
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	139	67	△ 71	△ 51.7
合 計		3,035	4,207	1,171	38.6

※()は、セグメント間取引消去。

26

連結營業利益増減内容

(単位:百万円)

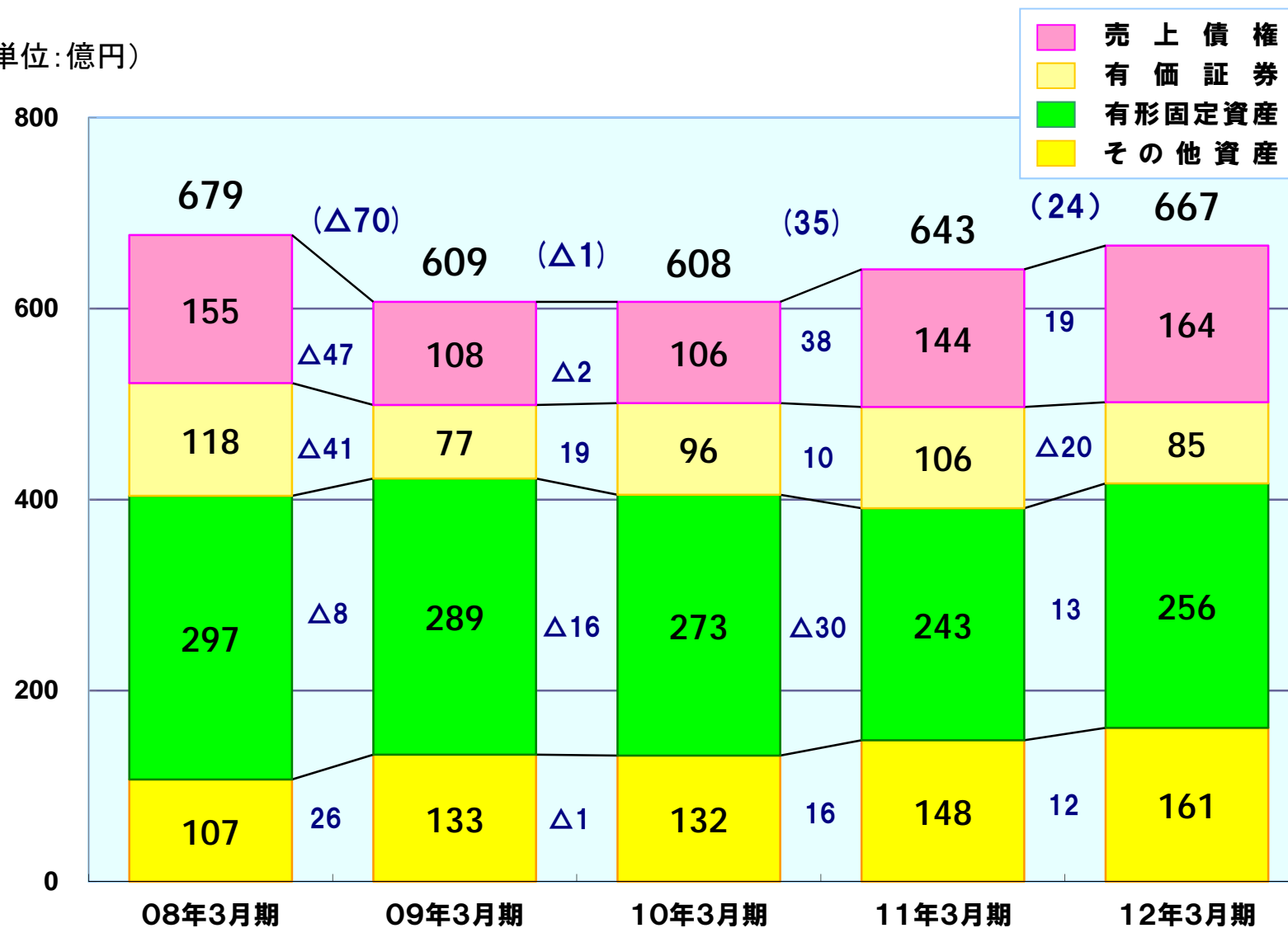


(単位:百万円・%)

科目	期別	2011年 3月期	2012年 3月期	増減	増減率
売上高		38,592	44,635	6,042	15.7
売上原価		30,336	34,323	3,987	13.1
売上総利益		8,256	10,312	2,055	24.9
販売費及び一般管理費		5,221	6,104	883	16.9
営業利益		3,035	4,207	1,171	38.6
営業外収益		633	546	△ 86	△ 13.7
営業外費用		229	284	54	23.6
経常利益		3,439	4,470	1,030	30.0
特別利益		666	20	△ 645	△ 96.9
特別損失		297	136	△ 161	△ 54.1
税金等調整前当期純利益		3,807	4,354	546	14.4
法人税、住民税及び事業税		1,567	1,588	20	1.3
法人税等調整額		△ 137	92	229	-
少数株主損益		176	310	134	-
当期純利益		2,201	2,363	162	7.4

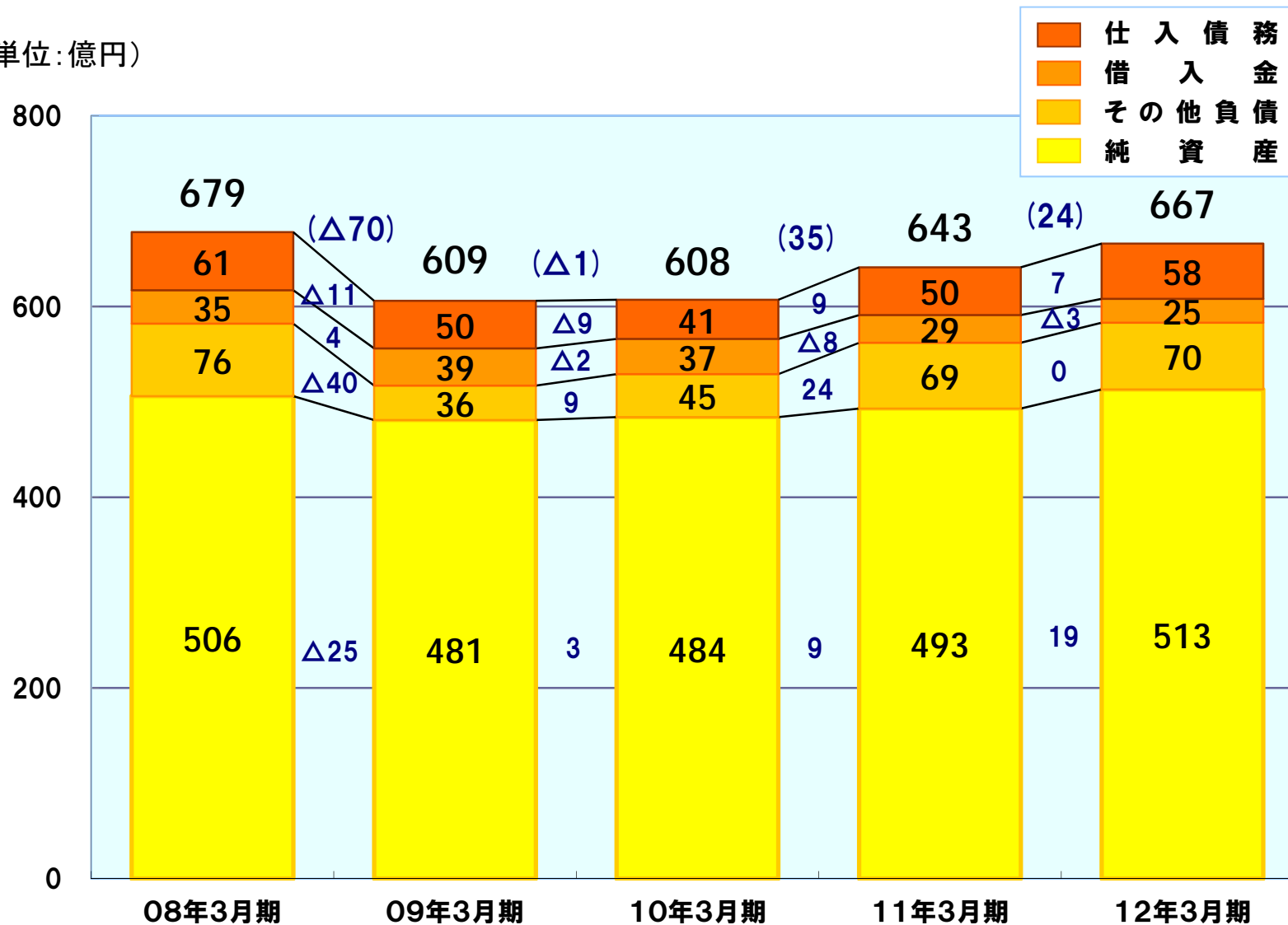
2012年3月期 資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



2012年3月期 負債・純資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



(単位:百万円)

科 目	2011年 3月期	2012年 3月期	対前年同期比 増 減
税金等調整前当期純利益	3,807	4,354	546
減価償却費	2,774	2,699	△74
売上債権の増減	△3,877	△1,992	1,885
仕入債務の増減	982	798	△184
その他	27	△2,020	△2,048
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,714	3,838	124
投資活動によるキャッシュ・フロー	△63	△2,798	△2,734
フリーキャッシュ・フロー	3,650	1,040	△2,610
借入金	△654	△358	295
自己株式の取得	△284	△13	271
配当金の支払額	△430	△469	△38
その他	△48	282	331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,418	△558	860
キャッシュ・フロー期末残高	9,493	10,923	1,429

	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期
① 自己資本比率	71.4	74.9	75.7	73.1	72.4
② 時価ベースの自己資本比率	62.6	40.8	50.7	48.3	48.7
③ キャッシュ・フロー対有利子負債比率	0.6	0.7	0.8	0.8	0.7
④ インタレスト・カバレッジ・レシオ	78.4	68.5	45.4	42.1	46.3

1. 今後のわが国経済は、緩やかな回復基調をたどると想定されますが、先行き不透明感は払拭できず、また、電力料金の値上や電力供給事情が操業度へ与える影響などが不安要素として残ります。このような状況のもと、当社グループは、第12次中期経営計画「*Global Challenge 30*」の初年度を迎え、積極的な事業展開を行うとともに、収益力の向上を図ることにより、売上高48,000百万円、営業利益4,000百万円、経常利益4,400百万円、当期純利益2,400百万円を見込んでおります。

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

高強度せん断補強筋および高強度ばね鋼線(ITW)の販売が堅調に推移すると予想され、また、中国および米国の連結子会社の業績改善により、売上高23,700百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益2,200百万円(前年同期比6.8%増)を見込んでおります。

(2) IH事業部関連事業

建設機械部品関連では、中国の景気減速等の影響により、受注の伸び悩みが懸念されますが、熱処理受託加工・自動車部品・誘導加熱装置関連では、関連業界からの受注量が堅調に推移すると予想しております。

売上高は、24,210百万円(前年同期比7.2%増)、営業利益は、建設機械・工作機械業界からの受注減の影響により、1,800百万円(前年同期比15.6%減)を見込んでおります。

(3) その他

売上高は、90百万円(前年同期比45.5%減)を見込んでおります。

(単位:百万円・%)

事業区分	2012年 3月期	2013年 3月期 (予想)	増減	増減率
製品事業部 関連事業	21,881	23,700	1,819	8.3
IH事業部 関連事業	22,588	24,210	1,622	7.2
その他	165	90	△75	△45.5
合計	44,635	48,000	3,365	7.5

(単位:百万円・%)

事業区分	2012年 3月期	2013年 3月期 (予想)	増減	増減率
製品事業部 関連事業	2,060	2,200	140	6.8
IH事業部 関連事業	2,133 (△53)	1,800	△333	△15.6
その他	67	0	△67	-
合計	4,207	4,000	△207	△4.9

※()は、セグメント間取引消去。

35

連結設備投資額

(単位:百万円)

	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期 (予想)
設備投資額	3,013	1,380	4,184	3,000
減価償却費	3,044	2,774	2,699	3,000

1. 激変する経営環境への適切かつスピーディーな対応

- (1) 受注量・シェアの確保とグローバル戦略の遂行
- (2) 電力料金値上げ・電力供給不安に対する適切な対応
- (3) 収益力向上策(品質・コスト・生産性)の実施
- (4) 新商品の拡販と新規事業の育成
- (5) 人財の確保と育成

2. 資産・資本効率の向上(ROA・ROEの改善)

- (1) 資産(有価証券・棚卸資産等)圧縮策の実行
- (2) 資本政策の実行

3. 資産の有効活用

- (1) 選別的な設備・研究開発投資の実行
- (2) 内外投資の早期回収

4. 企業価値の向上(時価総額の増加)

- (1) 第12次中期経営計画「*Global Challenge 30*」の遂行
- (2) CSR経営の実践



(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、公表時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。